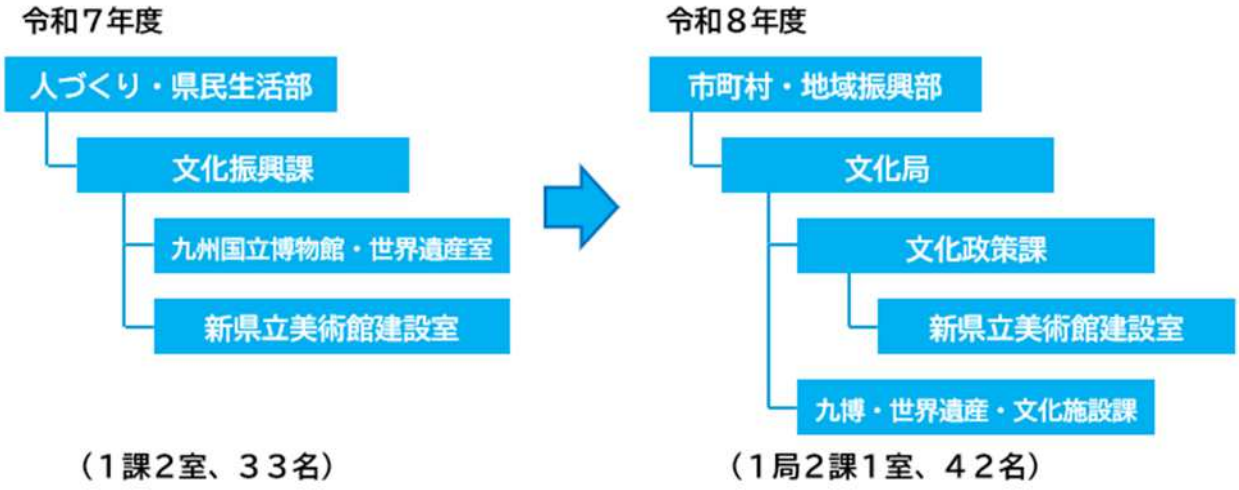
資料３

県の文化芸術振興体制の強化について

１　本庁組織の見直し

・今年度、文化芸術行政をさらに飛躍させるため、新たに「文化局」を設置
・文化政策課と九博・世界遺産・文化施設課を傘下に置き、人員も大幅に増員、専門性を高め、より力強く、機動的に施策を推進する体制に整備



２　福岡県文化芸術振興基金の設置

・施策推進のエンジンとして、今年度「福岡県文化芸術振興基金」を設置
・総額５０億円の中長期的な文化芸術振興施策を可能とする財源を確保し、「世界水準の芸術の誘致」や「未来への投資」などに活用
・県の取組みへの賛同を広げ、寄附や事業への参画など様々な支援を募るなど、県の活動を支える「応援団」を作り、寄附の受け皿にも活用

（基金対象事業）

Ⅰ　世界水準の芸術の誘致

企画、実施までに複数年度を要する中期的な取組の財源確保

・トップレベルの文化芸術公演の誘致
・新美術館における魅力ある展覧会の企画、実施
・美術品の取得

Ⅱ　未来への投資

県の文化芸術を育て、未来につなぐための長期的な取組の財源確保

・文化芸術を担う人材の育成、支援
・文化芸術を牽引する取組を次世代へつなぐ支援

3　福岡県版アーツカウンシル※の設置に向けた検討状況について

※日本語では「芸術評議会」と訳され、「文化芸術に対する助成を基軸に、政府・行政組織と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門組織」と定義されている。

(1) 現状と課題

- これまで県では、県有施設の貸館事業や文化祭の実施による「文化芸術活動の鑑賞・参加機会の充実」、助成金の交付による「文化団体・芸術家の活動支援」等を実施してきた。
- 一方、人口減少や担い手不足等により、個々の事業を実施・支援するだけでは文化芸術の持続的な発展を支えることが難しくなってきている。
- また、文化芸術は人の心を豊かにするだけでなく、人を呼び込み、人と人、人と地域をつなぎ、新たな交流や活動を生み出す力を持っており、地域の活性化や県の魅力向上につながる可能性を有している。
- このため、県ではこれまでの事業に加え、文化芸術が地域の中で自ら育ち、つながり、発展し続ける環境を整えることを目指す必要がある。

(2) アーツカウンシルの必要性

- 文化芸術が育ち、発展し続けるためには、専門家が地域に入り、芸術家や文化団体等と信頼関係を築き、専門的な助言を行い、長い時間をかけて伴走することが必要であり、この役割を担うのが「アーツカウンシル」である。

アーツカウンシル＝文化芸術を育てる「伴走者」

(3) アーツカウンシルの目指す姿と役割（案）

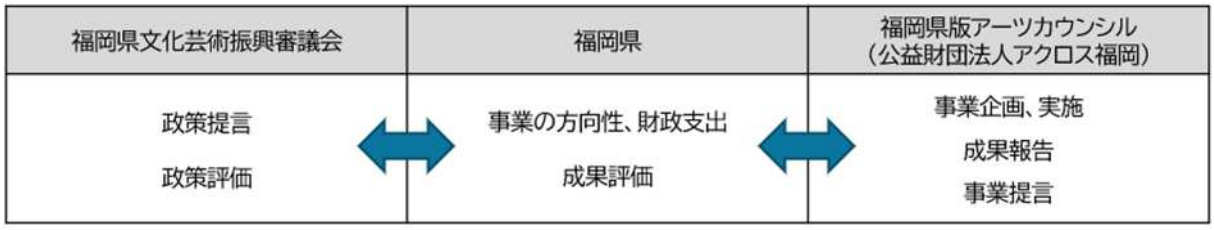
- 目指す姿(ビジョン)

「多様な文化芸術活動が育ち、つながり、発展し続ける環境づくり」

- 主な役割

① 県民の文化芸術活動の促進
② 担い手の育成
③ 地域社会の活性化
④ 文化芸術の価値の社会還元

(4) アーツカウンシルの位置づけ（福岡県文化芸術振興審議会との関係）



(5) 開設時期　2027(令和 9)年 4 月